

2025

3

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

健二のEssay／荒牧健二

1月号作品批評／宮本史一（心の花）

芙貴子ワールド／松本芙貴子

偶然の糸を遊ぶ【9】

高校生短歌特集【6】



NILE CAMPUS

309

伯梅閑話 — 高樹町 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

青山南町が南青山になったとき、東京都港区赤坂青山高樹町は、港区南青山七丁目になった。元々、東京市の赤坂区だったので、赤坂青山高樹町。港区役所の赤坂支所の管轄地域だった。自家用車を庶民が持つ時代でもなかったたので、赤坂御所に隣接する、赤坂支所へは交通不便だった。今、首都高速三号線の出入り口の名前として残っている高樹町は、母の実家のあったところ、母の実家の土地を手放す話があったとき、敏子の父がお金を出して食い止めたということで、敏子の実家が建つことになった。かつて、地中海の一員であったとき、バスで香川進先生の蔵書を寄贈した秦野図書館や、短歌の先人の生家などを回ったことがあった。帰途、たまたま、高速三号線を都心に向かっていて、敏子の実家のあたりを通った。高速のすぐわきなので、「右、小村井敏子の生家です」と言うとい大いに受けて笑いが起こった。

高樹町は我々庶民も住んでいたが、ちよつと奥に入ると、お屋敷が多く、いかにもお金持ちらしい服装の女性を見た記憶がある。そんな、いいお家の子は、外で遊ばせてもらえなかった。私たちが子供のころにも、遊びたそうに外を見ている女の子がいたものだ。母の時代なら、なおさらであつたらう。二〇二四年に亡くなった三笠宮妃殿下は高樹町の方。妃殿下が子供のころ、こつそり、裏口から出て、外の子供たちと遊び、そつと、裏口から帰っていたという話を敏子の妹が聞いているが、本当だろうか。

母や私の出た小学校は、女学校へ行く女の子が珍しかった時代に、クラスのひとつが女学校に進学するような小学校だった。青山南町にあったので、青南小学校という。私のころ、学校にプールがあった。まだ、水を浄化する装置はなく、週一回、プール掃除をして水を入れ替えていた。中学校に入ったときに、東京オリンピックで道路の拡幅があり、そのお金でできたというプールが浄化装置付きだった。